



建学の精神  
生徒の信条  
教育目標

あ さ い ち  
あいさつ さわやか いつでも ちいきと



みんな仲よく 面倒よく  
正しくあれ 強くあれ 望み高くあれ  
感動・笑顔・仲間  
持ち味を生かし 協同しながら  
自らを成長させる生徒の育成

旭一中だより  
令和4年度  
第8号  
令和4年11月1日  
文責 岩井 玲

## 人権感覚を高め、実践力を磨く

ジャイアンが「おい、スネ夫！のび太と口をきくんじやないぞ！のび太の消しゴムを隠してこい！」と言ったら、スネ夫はどう思うでしょうか？もし、スネ夫が「わかった。」と言って実行したら、のび太はどうするでしょうか？

あなたがスネ夫だったら、のび太だったら、どのように対応しますか？また、もしあなたが、ジャイアンとスネ夫のやりとりを聞いてしまったとしたら、どのように対応しますか？

すべての人が持つ「人としての尊厳と価値が尊重される権利」を「人権」と言います。人権が護られている状態を望ましいものと感じ、反対に、これが侵害されている状態を許せないと感じる感覚を「人権感覚」といいます。

冒頭の文章だけを読めば、多くの人は「ジャイアンが悪い。」「のび太がかわいそう。」と感じるでしょう。それは、ジャイアンの行動は、のび太の人権を侵害する行為だからです。

中学生として、この問題の解決を考えると、ジャイアンは、なぜそのような行動に出たのか、自分だけではなく、なぜスネ夫を巻き込んだのか、という背景も考えなくてはなりません。ジャイアンは、スネ夫の人権も侵害しようとしています。さらに、ジャイアンとスネ夫のやりとりを聞いていた人が、どのように振る舞うべきなのか、も大切な視点です。

自分の持ち味を生かすとともに、人の持ち味を尊重して行動できる一中生は、十分に人権感覚を持ち合わせています。ですから実際の様々な場面で、冷静かつ適切に判断し、行動する力を一人一人が高めることで、もっと居心地のよい第一中学校にできるはずです。



※全生徒が個人または小グループで発表し、それぞれの「持ち味」が発揮された「あさいち祭」の様子